



# 東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

## 「柔軟な働き方に向けた長岡統括センターの体制見直しについて」提案交渉 長岡統括フレックスタイム制を拡大 センターで

新潟地方本部は7月23日に団体交渉を行い、支社側より「柔軟な働き方に向けた長岡統括センターの体制見直しについて」の提案を受けました。

柔軟な働き方をこれまで以上に推進するため、今年10月1日より長岡統括センターの長岡駅(輸送室)、越後湯沢駅、浦佐駅、燕三条駅にフレックスタイム制を適用した作業ダイヤを拡大するとなりました。

### フレックスタイム制拡大の目的を明らかに

実施日の10月1日とする理由を質すと、花火などのイベントが終わり、準備期間や今後社員説明を行う事を考慮した結果であるとの考えを示しました。

◆ 実施日を10月1日とする理由を質すと、花火などのイベントが終わり、準備期間や今後社員説明を行う事を考慮した結果であるとの考えを示しました。

◆ 実施日を10月1日とする理由を質すと、花火などのイベントが終わり、準備期間や今後社員説明を行う事を考慮した結果であるとの考えを示しました。

◆ 実施日を10月1日とする理由を質すと、花火などのイベントが終わり、準備期間や今後社員説明を行う事を考慮した結果であるとの考えを示しました。

### 長岡統括センター 体制

2025年10月1日実施

	変形等	交代	乗務		計
			日勤	泊	
管理	24	6			30
一般	32	17	19	28	96
改正					
	変形等	交代	乗務	計	
			日勤	泊	
管理	32	2			34
一般	54	6	19	28	107

・業務の繁閑等に応じて1日当たりの出勤数(作業ダイヤ数)を柔軟に設定する。  
・上長の指示で管理者が一般社員の業務を行うことや一般社員が管理者の業務を行う場合がある。

業ダイヤにすることで、今回導入できる事となったとしました。

◆ フレックスタイム制の拡大が提案されている箇所が新幹線停車駅のみであることから、在来線の駅で導入しない理由を質しました。

◆ 支社側は、吉田駅などは空白の時間ができてしまいいコアタイムでカバー出来ない、柏崎駅は入換作業や夜間作業がある、上越妙高駅では来年度の組織の見直しなどの課題があるとの見直しを質しました。

◆ その上で、今回は対象外の箇所についても拡大に向けて引き続き検討していくとしました。

◆ 支社側は、長岡統括センター内の駅業務に關して業務エリアの考え方は変わらないが、フレックスタイム制の対象社員であれば、統括センター内のエリ

◆ 支社側は、長岡統括センター内の駅業務に關して業務エリアの考え方は変わらないが、フレックスタイム制の対象社員であれば、統括センター内のエリ

ア外でも勤務できるとの考えを示しました。

◆ 長岡駅の社員が越後湯沢や浦佐、燕三条での勤務や、その逆も可能という考えを質すと支社側は、そのような働き方、柔軟な勤務が可能であると考えているとしました。

◆ その上で、例えば同じエリアである吉田駅と燕三

◆ 長岡駅にフレックスタイム制を導入しての成果と課題を質すと支社側は、導入当初は不安の声があったが、ユニットなど様々な業務が出来てやり甲斐があるという声もあることが成果だとしました。

◆ また課題としては、フレキシブルタイムにユニットの業務を行う社員と担務が無い社員とで、業務量にバラつきが出てきていることや、出退勤時間がバラバラで、それぞれが業務を行うために一同に集まる勉強会が開催し辛いことを挙げました。

◆ 対策について問うと、DXを活用して動画教材を取り入れるなどを考えていて、一方通行とならないよう副長が入ってForums等を使ってフォローしていきたいとの考えを示しました。

◆ 勉強会等を行う上での課題として支社側は、フレキシブルタイム内で業務にあたる認識が社員それ

条駅としては、吉田駅で業務する社員はフレックスタイム制の勤務に入らないため、変形の勤務を行うことになることとしました。

◆ また、これから作業ダイヤを作成していくが、フレックスタイム制適用者ダイヤと、除外者用の作業ダイヤをそれぞれ作成していくこととしました。

◆ それにより異なっていたことを挙げました。

◆ フレックスタイム制の社員がフレキシブルタイムに自ら選択して出席することは可能という事であり、会社から出席日を指定することはできないという事を管理者にはしっかりと周知していきたいとの考えを示しました。

◆ 組合側は、フレックスタイム制導入により泊り勤務が2つの日勤に分かれたために、夜遅くに仕事が終わっても家に帰れずに職場に泊まり、そのまま早

◆ 朝出勤となる作業ダイヤについて、柔軟な働き方とはいえないのではないかと指摘しました。

◆ 支社側も課題だと思っ



## JR労働者が働きがいを得るJR東日本をつくらう!



JR東日本労働組合 第14回定期大会

中央本部は7月9日、田町交通ビルにおいて第14回定期大会を開催しました。新潟地本からは代議員・傍聴者あわせて29名の組合員が参加し、ともに大会を創り出しました。

中央本部の藤本執行委員長は挨拶の中で「会社は新しい会社組織・人事資金制度を提案した。これまでにない大きな転換期を迎えている。諦めや無関心、他人任せでは未来は切り拓けない」として、「東日本ユニオンはすべてのJR労働者と共に取り組む」と力強く訴えました。

質疑では新潟地本選出の代議員が、東日本ユニオンに加入するに至った想いや加入後の体験、組織拡大に向けた決意を発言しました。

◆ 全ての議案等は満場一致で可決され、新たな1年のスタートを切りました。大会後は千葉地本の仲間と合同で懇親会を行い懇親を深めると共に、大会の振り返りや取り組みについて語り合うなど、実り多い時を過ごしました。

◆ 支社側は、9時から翌朝9時までの勤務を分割して2つの勤務にしていることから、あくまでも2つはセットで考え、基本はしないという事で勤務指定は考えているとしました。

◆ 今後は新潟・庄内統括センターにも拡大していく考えなのか問うと支社側は、フレックスタイム制の更なる拡大について検討を行っていることを認め、導入する際には組合側に提案するとなりました。